

だいせつざんのすがお

大雪山の素顔

山岳ガイド、旭岳ビジターセンター、自然解説員などで活躍する人たちをリレーしています。高山植物、紅葉、雪、動物など「自然の大博物館」といわれる大雪山の素顔が見えてきます。

川が教えてくれたこと（最終回）

「泣きたくなるほど美しい」。昭和の初めに桂離宮を訪れたドイツ人建築家、ブルーノ・タウトの言葉です。7年前、私も桂離宮を見る機会を得ました。書院造りの建築や庭園には実に多くの技法が凝らされており、日本文化の精緻な美しさがありました。中でも造園技法の数々に目を奪われました。

飛石、景石、滝、州浜に築山。それらを造作した作庭師はどのような自然観を持っていたのか。日本の自然の美しさの粋を集め、高度にバランスさせた庭園を眺めると、その端々に溪流の要素を感じました。深山幽谷の趣き、私はそんな風景がとても好きです。

「登山道は川である」という言葉をご存じでしょうか？ 伝統的な石組み技法によって登山道の浸食を防止する工法です。近年、大雪山国立公園でも採用実績が増えています。近自然工法とも呼ばれ、前述の言葉はその考え方の基礎になるものです。登山道の浸食とは、主に急傾斜の区間で多くの人が通過することで植物が踏みつけられて枯れて裸地化し、さらに踏みつけられた土壌が雨水や雪解け水によつ

▶庭園のような溪流風景



て流失し、深くえぐれていく。とても歩きにくくなるため、その場所を避けて歩くことでさらに道幅が広がり、裸地部分が拡大し、流れた土壌

は下流方向の高山植物の上に堆積していく、という荒廃現象です。

従来、そのような箇所には丸太や角材を使用した階段工が設置されていますが、近自然工法はそれらに代わって周辺の自然石を利用して処する方法なのです。

簡単にいうと、上流側からの加重に耐えるようアーチ形状に石を組み、水の勢いをコントロールしつつ、登山者の歩行路ともするものです。その組み方や配置方法は、実は溪流の流れの中で生じている落差部分の石の位置形状がモデルなのです。

登山道は大雪山の自然環境を楽しむためになくはならない重要な施設です。人が造った道は必ず壊れるものですから、維持管理が必要です。特に原生的な自然環境であるほど、きめ細やかなメンテナンスが重要です。登山を楽しむ際、足下の登山道は誰かが手を入れて維持管理しているのだ、と気にしていただけたら幸いです。

環境省東川自然保護官事務所 佐藤 一 交

俳句

遠雷や花びら達がふるえてる

鬱積^{つしやく}を吐き出す如し雷荒るる

釣鐘草蜂のぞき来る日向かな

雷やときには粋な役まわり

畑仕事終えてごちそう塩トマト

遠雷やがらんと夜の喫茶店

雨はげし雷激し闇を裂く

日神鳴り幼児反抗始まりぬ

凄まじき雷雨に震ふ母子かな

緑陰に孫の結婚知らせくる

大合唱抜けて蜜語の蛙かな

雨上がり綱を繕^{つくろ}う蜘蛛の技

ナイターの照明暗し被災から



高瀬 潤

石澤 清宏

澤田 久美子

松山 蓉子

三島 智

秋山 深雪

長谷川 きみゑ

小林 露葉

青野 公花

杉山 ひろのり

徳光 吐苦

杉山 りつ

山口 佐知子